

2025年2月9日

「風や海さえも」

マルコによる福音書 4:35-41

早川 真牧師

海は、聖書では必ずしも良いものとして捉えられていません。聖書において海は、悪の領域、また陰府の比喩として語られることがあります。特に古代の世界では海は混沌をもたらす恐れるべき存在だったようです。しかし神は、この荒れた海に象徴される悪しき力を完全に静めることのできるお方であることが今日の個所に示されています。

時に私たちはなぜこの世の中に悪があるのかと問うことがあります。また神が愛であるならどうしてこの世界に悪があるのかと思うことがあります。このような問いに簡単に答えることはできないと思います。しかし今日の説教を準備する中で思わされたことは、私たちが滅ぼすためではなく救うために神はこの地上に悪の存在を許しておられるのではないかということです。

神は人間に永遠の命を与えたいと願っておられます。神はたかだか長くて 100 年ほどの人生ではなく、神と共に決して滅びない新しい霊の体で、永遠に生きる者となることを願っておられます。

人は滅びに向かっていることに気が付かないと言うことがあります。日常生活においても自分では上手くいっているだと思いついて、後になって実は間違っていたということはよくあることです。同じように、神から離れ永遠の命を受けていない状態は、どれだけ上手くいっているように思っても実は滅びに向かっているのだと聖書は語っています。

私たちの世界における悪さえも私たちの救いのために用いてくださる神の愛のみ手の中で、どんな時も共におられ永遠の命を与えてくださる、私たちの救い主イエス・キリストと共に導かれてまいりたいと思います。